

環境報告書
まち・住まいと環境 2021 [ダイジェスト]

2021年7月発行

独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
TEL.045-650-0111
<https://www.ur-net.go.jp/>



環境報告書 まち・住まいと環境2021



環境報告書(本編)は、WEBからダウンロードが可能です。
<https://www.ur-net.go.jp/e-report/>



環境報告書
まち・住まいと環境
2021 [ダイジェスト]



UR都市機構は、環境に配慮した取組を さまざまな業務フィールドで進めています

UR都市機構は、あらゆる分野において、幅広い関係者とのパートナーシップを充実・強化して、持続可能でレジリエンスの高い循環共生型のまちづくりをめざしています。

環境活動

地球温暖化対策 (気候変動への対応)



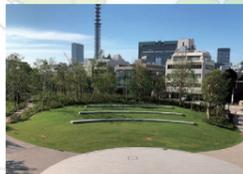
UR賃貸住宅では、環境負荷の少ないLED照明を積極的に導入(アーバンラフレ虹ヶ丘南(愛知県名古屋市))

資源循環 (廃棄物の削減)



将来的な劣化に伴う廃棄物を減らすユニットバス化

自然環境 (自然破壊への対応)



グリーンインフラを活用したオープンスペースの整備(コモレ四谷(東京都新宿区))



社会貢献活動

安全・安心、快適



隣接する施設と一体的に公園を整備(御社地公園(岩手県大槌町))

環境コミュニケーション



共同花壇の植え替えで環境美化(金町駅前団地(東京都葛飾区))



ガバナンス

ステークホルダーとの対話



青空介護予防教室の実施(大島四丁目団地(東京都江東区))



事業紹介パネルの設置(南三陸町志津川地区(宮城県南三陸町))

気候変動に対する緩和策・適応策

緩和策

気候変動を引き起こす原因となるCO₂排出量の削減やCO₂吸収源(樹木等)の増加を図ることを言います。



CO₂の吸収 >> 既存樹木の有効活用

適応策

気候変動による悪影響にあらかじめ備えておくことで、影響を回避・軽減することを言います。



雨水流出抑制 >> 渋谷駅東口雨水貯留槽の整備

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。UR都市機構ではさまざまな事業の推進により、SDGsにも貢献していきます。

環境活動

地球温暖化対策 (気候変動への対応)

まちや住まいのエネルギー消費の低減、環境負荷の少ない新しいエネルギーの活用、職員の省エネ意識の向上等を進めています。



職員で育成した緑のカーテン (UR都市機構九州支社 (福岡県福岡市))

資源循環 (廃棄物の削減)

まちや住まいの計画、設計、建設、居住、改修、解体の各段階で、資源の有効利用と廃棄物の削減を進めます。



既存の部屋をリノベーションし、廃棄物の発生を抑制 (北本団地 (埼玉県北本市))

自然環境 (自然破壊への対応)

多様な機能を有する自然環境と調和したまちづくりを進めます。

シャレール萩蓬 (東京都杉並区) における環境共生 第1回グリーンインフラ大賞®生態系保全部門優秀賞受賞

UR都市機構では、環境負荷の低減や居心地の良い空間形成を図るため、周辺とのネットワークの形成を意識した広域的な視点で、グリーンインフラを活用した計画・設計を進めています。

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組 (国土交通省「グリーンインフラ推進戦略」より)

※グリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰し、広く情報発信を実施することを目的に令和2年度に創設された表彰制度。(主催:国土交通省)

ひとと自然が共生するまちづくりに向けた⑤つの取組

- 緑のネットワーク形成** 豊かな緑に囲まれたまち
団地で育った樹木を保存や移植により残し、周辺の緑の拠点と共に豊かなまちをつくります。
- 生物多様性の継承** 生きものが集まるまち
雨水を利用したバードバスづくりや、まとまった緑地の保存など、生物多様性に貢献する屋外環境をつくります。
- 風の通り道の確保** 風が通り抜けるまち
夏に善福寺川の上空を吹く涼風を団地内に通す住棟配置とし、住戸内にも風を取り込む工夫をします。
- ヒートアイランド現象の緩和** 涼しいまち
ホットスポットとなる平面駐車場を少なくし、屋上・壁面緑化や打ち水効果のある保水性舗装を行い、夏の暑さを軽減させます。
- 環境にやさしいライフスタイルの支援** 地球にやさしく、人がふれあえるまち
交流が生まれるクワイガルデン (賞し農園)、伐採された樹木の活用など団地にお住まいの皆様が自然と親しみ暮らせる支援をします。



UR都市機構は、
重要な環境課題への対応 (「地球温暖化対策」「資源循環」「自然環境」) を中心に、
さまざまな環境活動を実施しています。
さらに、さまざまなステークホルダーと連携しながら、社会貢献活動を進めています。



写真: URフォト&スケッチ展応募作品

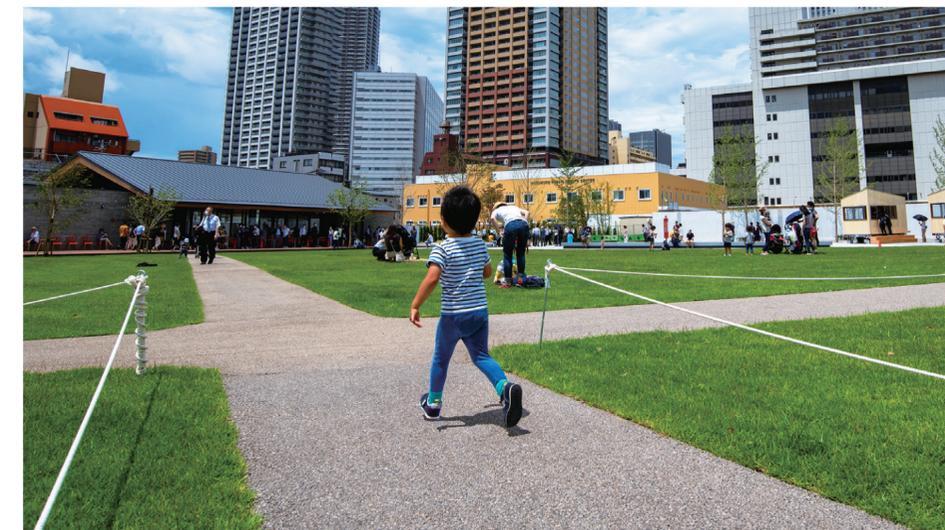
主な環境活動の実績 (2020年度)	植樹本数 (高中小)	CO ₂ 総排出量	建設廃棄物再資源化・縮減率
	約20,000本	92,200トン	99.5%

社会貢献活動

安全・安心、快適

健康や衛生にかかわるまち・住まいの安全・安心や快適性を確保します。

「安全・安心」「文化・賑わい・環境」の公園づくり (IKE・SUNPARK が開園)



2020年12月、造幣局東京支局跡地 (東京都豊島区) に、「安全・安心」「文化・賑わい・環境」のまちづくりを目標に整備した「としまみどりの防災公園」(愛称: IKE・SUNPARK) が全面開園し、多くの方に利用されています。

環境コミュニケーション

ステークホルダーの皆様と積極的なコミュニケーションを行うことで、真に求められるまちや住まいのあり方を模索し、環境にやさしい持続的発展が可能な都市への再生を進めます。

生産者と消費者を結び付けた大量廃棄ゼロの暮らし (農産物等販売会)

生産者と消費者を直接結び付ける地産地消の取組の一環として「農産物等販売会」を開催し、大量廃棄ゼロの暮らしをめざしました。地産地消は、遠方への運搬によるCO₂ 排出削減にもつながります。



虹ヶ丘団地 (神奈川県川崎市)



東日本大震災復興支援の現場で、若者と一緒に公園計画の検討・模型作製 (新門脇地区 (宮城県石巻市))

東日本大震災復興支援における環境への配慮

東日本大震災復興支援においては、被災自治体や地域の方々と連携しながら環境に配慮した復興まちづくりを行ってきました。

CO₂ 排出ゼロへの挑戦
～水素製造拠点整備の支援～
棚塩地区 (福島県浪江町) では、「福島イノベーション・コースト構想」等に基づく先端産業拠点の形成を目的とした整備が町により進められており、UR都市機構はそのための基盤整備を実施しました。同地区においては、福島水素エネルギー研究フィールドが整備され、太陽光パネルで発電した電力で水を電気分解し、CO₂ を排出しないグリーンエネルギーである水素の製造を行っています。



2020年3月撮影



福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)